

イエス団沖縄平和研修報告（2024年6月22日～26日）

沖縄研修を終えて

戦後79年の今年“平和行進”を含む5日間の沖縄研修に参加させていただきました。

正直、広島・長崎への米軍からの原爆投下に関する多少の知識はあったが、沖縄県やその周辺の小さな島々が戦場となりたくさんの市民が犠牲になったことはあまり知らなかったので、勉強するいい機会だと思ったのがキッカケです。

今回の研修で学んだこと、感じたことは、
犠牲者いつも弱者である！

そして当然のことですが、“二度と戦争を起こしてはいけない!!”ということです。

“対馬丸事件”そして“3ヶ月ほどにもおよぶ沖縄地上戦”、“ひめゆり学徒隊”などにかりだされた学生達、またそれ以外にも、自然にできた洞窟等に隠れて生活していた人達が未来を悲観したり、米兵からの呼びかけに応じることなく「集団強制死」を余儀なくされ、たくさんの民間人が亡くなりました。

沖縄に着いてまず向かったのは小さな子どもたちが犠牲となった対馬丸について学べる”対馬丸記念館“です。

館内は薄暗く当時の船内を思わせるつくりになっていました。

そこに本当にたくさんの犠牲者の方々の写真が壁いっぱいに貼られてました。

皆が眠りについた夜の10時過ぎに米軍の潜水艦からの攻撃を受け真っ暗な海へと投げ出された子どもたち。船に乗り込むときは“疎開”の意味もわからずちょっとした旅行気分だった子もたくさんいたと聞きます。その航路の途中で足の届かない真っ暗な海でさまようことを余儀なくされた子供たち。友達や先生とも離ればなれになりとても怖かったでしょう、寂しかったでしょう、そして苦しかったでしょう。

また、生き残った人たちにも日本政府から、沈没の事実を口外しないようにと監視されたり生きづらい日々を過ごされていたようです。

戦争が何の罪もないたくさんの大人から子どもまでの平和な日常を奪い生命までも奪ってしまったのです。



そして今、沖縄には多数の米軍基地やその関連施設があります。

現在も辺野古に米軍基地をつくろうと海岸線に埋め立てる為の土砂が毎日のように運ばれています。

その現状を「へり基地反対協」の抗議船で海から視察させていただきました。

たくさんのブイ等で、進入できないようになっていて、またその内側には常に海上保安庁の巡視艇が偵察していました。

案内して下さった方の説明によると、辺野古の海岸を埋め立てている為、毎年やってくる”アジサシ”という渡り鳥の数が激減したり、希少生物である”ジュゴン“や”ウミガメ

“のえさになる海草（うみくさ）が育たなくなったり、”ウミガメ”の産卵地である海岸線も埋め立て中のためそれらが近寄らなくなっていました。

海の中で生息している”サンゴ“も埋め立ての被害者です。島民からの訴えにより移植された”サンゴ“も結局は環境の変化に対応できず約8割が死滅してしまったそうです。



海で生きている生物を殺したり近寄りがたくして作り上げようとしているもの。。それが戦争の準備をするための軍事基地なんです。またその海を埋め立てている土砂は沖縄戦の舞台にもなった土地から土砂を運んでくるそうです。その土砂の中にはまだ遺骨が残っている可能性もあるというのに、その土砂を使って米軍基地を作ろうとしているのです。

人道的にも腹立たしい行為だと思います。

また基地があるということはその場所には戦争をするための武器・兵器・弾薬などを備えているということです。それは今後、日本ではなくてもアメリカとどこかの国が仮に戦争を起こすようなことがあれば、相手国から一番初めに狙われるのは武器等を備えてる場所だと専門家も発言しています。

日本政府は“国や国民を守るため”という名目で進めている基地建設。これが再び沖縄を戦場にする可能性があるということを知っていただきたいです。

そして”戦争は決して起こしてはいけない!!“と声をあげていかなければ、そう改めて感じた5日間でした。

今もなお、世界のどこかで戦争が起き、民間人が犠牲になっています。

こんな日が一日も早くなくなるよう発信していきたいと思います。

大好きな沖縄とその周辺の海をきれいなまま後世に残すために。 （那波雅俊）